

## 長岡京市生活環境審議会の評価・意見及び市の考え方

長岡京市では、本計画を策定及び進捗管理を行う際に意見を求めるため、「長岡京市生活環境審議会」を設置しています。この審議会には、市民や事業者、諸団体と行政の委員が参加し、PDCA サイクル（計画し、実行し、チェックし、改善する仕組み）を運用しています。本計画の取り組み主体は行政ですが、それを行政自身で評価するのではなく、多様な主体が加わって評価します。

これにより、行政以外の視点でチェックをし、取り組みを改善していくことができます。この章では、審議会委員からの評価と意見をまとめるとともに、それに対する市の考え方について報告します。（※重複する意見や単純な質問・回答については省略しています。）

### ■4 ページ、再エネの世帯普及率について

委員意見
◇データの把握が困難になっているということであった。重要な指標であるので、国の FIT 制度で開示している数値は使えないものか。それによると新規件数として 70 件以上は増加していると見られる。過去の数値が取得できるかを含め検証されたい。
市の考え方
◇委員ご指摘のデータは活用できるものとする。過去の分も 2 年程度は遡ってデータの取得が可能である。ただ、これまで普及率算定に用いてきたデータと異なるため、若干数値が変わる見込みである。そのため、活用方法については、「過去の数値の検証結果を含め公表する」、「注釈を付ける」などの提案と共に、次年度以降、改めて審議会でお諮りしたい。

### ■4 ページ、西山産薪について

委員意見
◇「薪の原料としてきた被害木が一定整理できてきたので、今後は供給量の確保が難しい」とのことだが、一方で 17 ページを見ると間伐による森林整備は進んでいるようである。薪は広葉樹だけでなく、スギやヒノキなどの針葉樹でも使うことができるので、そちらの資源化も検討いただきたい。
市の考え方
◇薪の原料については、火持ちの良さから広葉樹に限定しており、スギ・ヒノキについては、間伐後に搬出し、公共施設の備品等への活用を推進しているところである。森林資源の利活用については、より効率化できるよう、引き続き検討を進めていきたいと考えている。

### ■5 ページ、公共施設における太陽光発電システム設置状況について

委員意見
◇公共施設に設置する規模としては小さいのではないかと。増設する機会があれば努力されたい。
◇導入を進められている小水力発電設備についての記載はあってもよいのではないかと。
市の考え方
◇環境部署としては、積極的に再エネの導入及びその発電量の増加を働きかけるものであるが、

庁内合意形成の過程で様々な視点・意見を取り入れ、結果として、規模の小さいものにとどまっている現状がある。今後も新規施設、既存施設含め、再エネの増加は課題であるので、その必要性について積極的に働きかけていくこととしたい。

◇小水力発電設備についても、公共施設における再エネであるので、記述を加えることとする。

## ■8 ページ、グリーンカーテン、13 ページ、マイバッグ、28 ページ、市民活動サポートセンター、その他温暖化に起因すると思われる災害について

### 委員意見

◇今年も長雨でグリーンカーテンの取り組みではどこの家も青々としているのではないかと。今後も応援していきたい気持ちである。

◇7月1日からレジ袋の有料化が始まった。スーパーでは以前よりマイバッグが増えたように思う。よい結果として受け止めている。

◇市民活動サポートセンター自体の認知度を高めて、団体同士のつながり・連携を深めていけたら、環境問題についても相談して前に進めていけると思う。

◇7月の九州豪雨のような災害の原因を考えると、私達の生活が便利になり過ぎ、CO<sub>2</sub>を出し続けていることに起因すると思う。私達自身の意識改革が必要である。

### 市の考え方

◇グリーンカーテンについては、今後も市役所で実施すると共に、啓発を行っていききたい。

◇マイバッグの啓発についても継続して行っていく。昨年12月からは「マイ・プラ・レディ運動（私の・プラスチック類は・自分で準備）」と称し、市役所職員にも改めてマイバッグを奨励しているところである。

◇市民活動サポートセンターの認知度向上と団体同士の連携については、ご指摘のとおり、環境課題を含め、様々な公共的課題に対処する上で重要な視点になると考える。ご意見は市民活動サポートセンターを所管する課とも情報共有させていただく。

◇近年の災害多発は温暖化に起因すると言われている。温暖化の緩和策は再エネの普及と省エネの推進であるが、ご指摘のように我々のライフスタイルを見直し、省エネを進めることは、非常に重要と考える。

## ■11 ページ、急速充電器の利用促進について

### 委員意見

◇「二酸化炭素の減」「大気汚染の防止」について「国の政策として」との記述があるが、長岡京市としての立場を書けばよいのではないかと。また、市として取り組んだこと、今後の展望などあれば記載してはどうか。

### 市の考え方

◇ご指摘のとおりであるので、長岡京市としての立場に記述を改める。新庁舎での充電器設置については未定であるが、今後、検討が必要である旨の記述を加えることとする。

## ■12 ページ、「廃棄物の発生抑制」とする小見出しの取り組み内容について

委員意見
◇2.資源循環型社会の形成の(1) 廃棄物の発生抑制・再生利用の推進の①廃棄物の発生抑制であるが、取り組み内容を見ると発生抑制というよりは資源化のことが書いてあるので、小見出しの表現の変更は必要ないか。
市の考え方
◇タイトルや見出しは第二期環境基本計画策定当時のままである。進捗管理を行う中で、より効果的な取り組みへと内容を変更してきた経過があり、それにより見出しと中身が完全一致しないところがあるのはご指摘のとおりである。委員の総意で変更することは可能だが、令和3年度で二期計画期間が終了するため、三期計画での見直しとしたい。

## ■28 ページ、市民活動サポートセンターについて

委員意見
◇市民活動サポートセンターの理事を担っているが、いろいろと広報については工夫をされており、取り組みの途上である。団体登録数の目標値はかなり高い目標である印象だが、少しでも登録団体数が増えるよう、サポセンに登録することのメリットなどを訴えていきたい。
市の考え方
◇知ってもらおうということ、交流の機会を増やすということは、環境政策の分野において大変重要なことである。「市民活動サポートセンターの管理運営」のところの記述については、量的な記述だけでなく、質的な記述についても加えることとし、広報を工夫されていることについても触れたい。